

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

事業課題名	アジア・イスラーム型共生文明の構築をめぐる国際学生ワークショップの開催
代表者名	小杉泰
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、アジア・イスラーム型共生文明の構築をめぐる問題群に関する国際学生ワークショップを、マレーシア国民大学イスラーム文明研究所 (Institute of Islam Hadhari, Universiti Kebangsaan Malaysia) にて開催するものである。大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 (以下、ASAFAS) グローバル地域研究専攻には、平和共生・生存基盤論講座があり、これまで専攻全体で非ヨーロッパ型の文明パラダイムのあり方を探究してきた。一方、本事業によってワークショップを開催する IIIH は、アジア・イスラーム型文明論に関する域内随一の研究拠点である。本事業での国際ワークショップの開催によって、アジアから提起する共生文明パラダイムの普遍的可能性を協働で探究するとともに、その新たなパラダイムが人類の直面する諸課題にどのように貢献しうるかについて方向性を示すことが期待される (「国際的学際的協働による世界最高峰のアジア研究拠点の形成 (ミッション 1)」への貢献)。また、本事業による国際ワークショップの開催にあわせて、マレーシア国民大学と大学間学術交流協定を締結する (「相互理解と問題解決のための現代アジア研究の国際共通基盤構築 (ミッション 3)」への貢献)。本ワークショップでは、京都大学およびマレーシア国民大学の大学院生による研究発表を行わせるだけでなく、ワークショップの組織自体に両大学の大学院生を参画させることで、国際舞台での学術交流の経験を豊かにさせることをめざしている (「国際連携大学院プログラムによるグローバル人材育成 (ミッション 2)」への貢献)。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本ワークショップは、2017 年 8 月 9 日から 10 日まで 2 日間にわたり、マレーシア国民大学イスラーム文明研究所にて開催された。なお、前日の 8 月 8 日には、本学の稲葉カヨ理事、マレーシア国民大学副学長の間で、大学間学術交流協定が結ばれた。これは、本事業が継続的にマレーシア国民大学との間で研究・教育交流を行った大きな成果の一つとして特筆される。</p> <p>ワークショップ本体については International Symposium on Islam, Civilization and Science として、マレーシア前首相 Abdullah bin Haji Ahmad Badawi および稲葉カヨ本学理事の臨席の下に開催された。事業代表者 (小杉泰) に加えて、2 名のマレーシア国民大学の研究者 (Dato' Noor Aziah Mohd Awal 教授、Dato' Dr. Mohd Yusof Hj. Othman 教授) による基調講演に加え、日本側から 8 本、マレーシア側から 18 本の研究報告が行われた。日本側からの発表者には、本事業からの派遣も含めて 4 名の大学院生が含まれている。</p> <p>ワークショップでは、西洋文明とは異なる独自性を持つイスラーム文明が、どのような共生社会ビジョンを提示しうるかについて、アジア・イスラーム型共生文明に関する議論に特化させながら各セッションで活発な議論が交わされた。そこからは、イスラーム世界で急速に勃興しているイスラーム経済 (イスラーム金融、ハラール製品、伝統的イスラーム経済制度の復興) が提起している特有の価値 (公平性、道徳性など) は、アジア・イスラーム型共生文明の提起だけではなく、欧米や日本にも通用しうる新たな普遍的共生社会パラダイムの構築に貢献しうるものであるという議論が複数の参加者から提起された。そして、こうしたアジア・イスラーム型共生文明のパラダイムを人類全体の価値パラダイムとしていくためには、イスラーム研究とアジア諸学、そして欧米型諸学問ディシプリンのより密接な交流が必要であるという意見も提起された。</p> <p>本事業の教育効果として、会議に参加した本学の大学院生が現地の教員・研究者と非常に積極的に研究交流を行っている光景が至る所で見られたのは特筆に値する。次世代の学術研究を担う大学院生に対して、今後もこのような機会を継続的に提供していくことの重要さとその効果の大きさを痛感させられた会議でもあった。</p>

